

事業名称	3つのエコシステムによる「城の西 みらい構想」実践事業
団体名・代表者	城の西エリアマネジメント準備会 代表世話役 米谷啓和
協働の相手方	市民活動推進課、城西地区地域自治会、兵庫県立大学地域創造機構、NPO 法人 スローソサエティ

目的	20年後の〈城の西〉エリアを見すえ、社会・環境・経済の3つの観点から持続可能な地域の仕組み（エコシステム）づくりを提唱・実践する。 そのために最適化された地域運営組織のあり方と、それを支える地域拠点施設の機能や再配置などもふくめた「城の西 みらい構想」推進の策定をすることで、社会包摂的地域システムのモデルの一つとなりうる「わたしたちのまちのかたち」を提言する。
内容	(1)「社会エコシステム」 自治会活動への参画形態など新たな社会基盤の構築と、地域活動拠点設置の調査研究 (2)「環境エコシステム」 公園の里山化やみどりのインフラづくりを通じた多世代交流や地域活動への次世代の取り込み (3)「経済エコシステム」 地域への参画の裾野を広げる地域経済循環活動の確立
事業経過	通年：御前山広場で小さな循環づくり、地域スポーツ、ヘッセドのマルシェ開催協力 8月：「管丘818マルシェ」実施 11月：「グリーンウォーキング」実施 12月：「ブルーベリーガーデンを作ろう」「管丘1215マルシェ」実施 3月：「城の西 森ものがたり」「城の西 みらい構想提言書」作成
事業の効果	小さな循環作りは定着し、作業をしていれば周りには子どもたちが寄ってくるようになった。また、蓄積された堆肥がブルーベリーガーデンづくりの資材になるなど次のテーマへのつながりもできるようになった。初開催のマルシェ開催については、そこで数時間過ごす人が多かったり、売り切れの店が出たり、子どもが子どもらしく遊ぶ様子が見られるなど、住民憩いの空間がこれまでなく、その重要性が明らかとなった。
今後の展望	日々自然の脅威と戦いながら暮らすようになった昨今、場当たりの見た目だけのかっこよさよりも、現実的で楽しく持続可能な暮らしができる地域が今後必要となることは明らかである。そのためにどういう組織作りが必要か、何にどのように取り組むべきかを見極め、〈城の西〉らしさを存分にだした、風通しの良い地域が生まれるように活動していきたい。

### 【実施団体の事業総括・感想等】

上記3つのエコシステムを実現し、誇りあるまち〈城の西〉の住民自治組織を機能させるための象徴的な建物が必要であることがさらに明確になった。住民主体のマルシェ、こどもの遊び場、大人のくつろぎの場、高齢者のやりがいの場、地域で生み出し使えるエネルギー創出の場など、社会・環境・経済的なよりどころであり、地域のレジリエンスを高めることができる空間を地域に作れるように進めていきたい。

### 【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

城の西の将来を見据え、社会、環境、経済の3つの観点から持続可能な地域の仕組みのための試行として、住民主体のマルシェ、地域の居場所づくりなど、地に足の着いた事業を丁寧に実施していただいたと考えています。住民自治組織の確立に向けての提言等もいただいております。市としても参考・研究させていただくとともに、ともに考え、実践していくため、引き続き継続した活動を期待しています。